



あかいわ防災士便り 第1号

はじめの一步!

あかいわ防災士連絡会
会員数 81名 (H28年時点)

～こんにちは! 防災士です!～

【**防災士**】とは日本防災士機構が認定する民間資格です。
阪神大震災の経験から災害に備え 2003年に制度化されました。
赤磐市では市内の資格取得者と連携した防災組織【あかいわ防災士連絡会】をH28年2月より発足。これまで私たち防災士は各自で地域住民への啓発などを行っていましたが、今後は防災士の資質向上を目指した各種講座への参加や、広報活動により市民の防災意識の向上に役立てるよう「自助・共助・協働」を原則として取り組んでいきます。



～啓発活動に行ってきました!～

平成28年12月18日(日)
赤坂公民館祭りにて、「あかいわ防災士連絡会」はメイン会場の赤坂体育センターの一角にブースを設けました。
赤磐市総合防災訓練(11月20日赤坂ファミリー公園にて実施)の様子や活動写真を掲示。また、新聞紙を利用した紙コップやスリッパづくり、三角巾による包帯の折り方や巻き方などを市民の方々に指導しました。今後も様々な防災イベント等の場でこのような実演や啓発活動をする予定です。

～参加できる人が無理なく参加しています～H28年度の活動～
・8月 市町村防災力強化専門演習 ・9月 避難所頭上運営訓練
・10月 岡山県、赤磐市自主防災組織リーダー研修会
・2月3月 避難所運営図上訓練(熊山、山陽、吉井)

～会員レポート～

平成29年3月11日(土)
あの東日本大震災から6年が過ぎました。

今年も「美咲町スポレク柵原」さん主催の追悼イベントに参加させて頂きました。昨年美咲町(柵原地区)においても6名の防災士資格の取得があり、防災士組織設立の機運が高まっています。また、当日お会いした日本防災士会岡山県支部、顧問の稲谷皓右様から美作市にも防災士組織が設立され「あかいわ防災士連絡会」の設立過程を参考にさせていただきました。」との言葉をお聞きしました。
「美咲町スポレク柵原」さんも、理事長の表田実典様をはじめとして防災意識が高く、やはり、「あかいわ防災士連絡会」を目標に追いつけ追い越せで頑張っておられます。その注目度に負けないだけの活動が私たち連絡会員の責務であると感じました。
〈広報部会〉 若林



家族防災会議

役割分担、避難場所、避難場所までの道順、家族との連絡方法などを家族全員で確認しましょう。



災害伝言ダイヤル「171」

災害によって電話が通じなくなった時のために災害用伝言ダイヤル「171」を覚えておきましょう。



～備えあれば憂いなし～

～家庭内で避難場所や災害時の連絡方法について確認しよう～

避難場所・道順の確認

地域の避難場所はどこか、道順はどうするかなどを確認しましょう。海辺などにいるときに地震が起きた場合には、すぐに高いところに避難しましょう。



普段の食品で一週間分の備蓄を

非常食は最低3日間、できれば**1週間分**ほど用意しておく安心です。
レトルト食品や缶詰、カップ麺など、保存のきく食品を多めに買い置きし、古いものから順に食べ、食べた分は買い足すという「**ローリングストック方式**」がオススメです。

「防災は意識改革から」

近年日本各地で想定外(場所・規模)の災害情報が頻りに発信されています。その状況に於いても「自分が住んでいる地域は安全だ。被害にあわない。」と思っている方が多いのでは?

「防災」が目指すものは、災害にあう人を減らすことであり、さらに死者を出さないという**減災**が最大の目標と考えられています。

災害には、地震のような広範囲に大災害が発生するものから、個人が日常生活の中で遭遇するような小規模災害があり、災害にあう人を減らすためには、日常(社会)生活の中で危険を予知することが防災活動の第一歩と考え、自身の行動範囲の中で危険を見つけ、もしもの時に備えて身を守る知識を学ぶことが大切です。

大切な人を守るための「**防災家族会議**」を開き、平時から意識的に災害をイメージし、防災の準備をすることが大切です。

最近の情報では、小学生の意識を大きく変えた、拡張現実(AR)や仮想現実(VR)を防災に生かす取り組みが広がっているようです。

事例としてGoogleの中で水没状況をリアルに再現する拡張現実(AR)は、見慣れた風景が一変することで、単純になりがちな防災訓練を打破したり、大災害の被害を語り継いだりするのに効果を上げています。